

2026年10月9日
損害保険ジャパン株式会社

浜松市との「やらまいか！浜松モビリティフェスタ」の開催について

損害保険ジャパン株式会社（代表取締役社長：石川 耕治、以下「損保ジャパン」）は、浜松市（市長：中野 祐介）、遠州鉄道株式会社（代表取締役：丸山 晃司、以下「遠州鉄道」）、スズキ株式会社（代表取締役：鈴木 俊宏、以下「スズキ」）と連携し、浜松市民の交通安全意識の向上と、安全で充実したモビリティ社会の実現を図るため、2026年10月8日に「やらまいか！浜松モビリティフェスタ」を開催しました。

1. 背景・経緯

損保ジャパンは1888年に日本初の火災保険会社として創業し、創業期には実際の火事現場に駆け付ける「火消し」として地域を守ってきた歴史があります。その「火消しの精神」を原点として135年以上にわたり、社会の安心・安全を守り抜いてきました。現在は「火消しの精神」を「HIKESHI DNA」として再定義し、社会課題の解決に貢献する災害に強く、だれもが安心して暮らせる地域社会の実現を目指す「HIKESHI DNA 2030 Project」を全社で展開しています。

このような背景のもと、浜松市が政令指定都市の中において16年連続で人身交通事故ワースト1であるという課題に対し、損保ジャパンは「モビリティ」をキーワードにした解決策を模索してきました。このたびのイベントは、高齢運転者の運転寿命延伸や免許返納後の代替モビリティ普及を目的とし、浜松市モビリティサービス推進コンソーシアムの共同幹事である各社の協力のもと、開催に至ったものです。

2. イベントの目的

市民、特に高齢運転者が、自身の運転能力や最新の安全技術、新たな移動手段について理解を深める機会を創出すること、そして、運転寿命の延伸を支援する体験や、サポカー（安全運転サポート車）、次世代モビリティに触れることを通じて、交通安全への意識を高め、将来の移動手段を考えるきっかけとさせていただくことを目的としています。

3. 概要

開催日時：2026年10月8日（木）11時～16時

開催場所：遠鉄自動車学校（浜松市中央区小池町1552）

主な内容：運転寿命延伸、サポカー、次世代モビリティの3つのテーマに関する体験型コンテンツ

主催：損保ジャパン

共催：浜松市、遠州鉄道、スズキ

4. 当日の内容について

当日は、屋外と屋内の双方で、参加者が楽しみながら学べるコンテンツを多数ご用意しました。

屋外では「サポカーの安全ブレーキ体験」や「電動車いす・ドローンの実演」など、最新技術を間近で体感いただきました。屋内では「認知機能チェック」や「運転シミュレーター」など、自身の運転能力を見つめ直す機会を提供しました。

これらの体験を通じて、参加者一人ひとりが交通安全を「自分事」として捉え、将来の安全で安心な暮らしを考える有意義な機会となりました。

5. 今後について

損保ジャパンは、本イベントを皮切りに、浜松市における交通安全課題の解決に向けた取組みを継続的に推進していきます。

また、損保ジャパンは「災害に強く、だれもが安心して暮らせる地域社会の実現」を目指す「HIKESHI DNA 2030 Project」を推進しており、今後も浜松市のさまざまな地域課題の解決を通じて、安心・安全な地域づくりに貢献していきます。



HIKESHI DNA 2030 Project

「HIKESHI DNA 2030 Project」は、当社の原点である“火消しの精神”を今に受け継ぎ、地域と連携して「災害に強く、だれもが安心して暮らせる地域社会の実現」を目指すプロジェクトです。

【当日の様子】



以上